

に い が た ろうしきょう NEWS

新潟県老人福祉施設協議会広報誌

2014. 3. 25 NO. 20

■2013年度新潟県老人福祉施設協議会活動報告

巻頭シリーズ・元気な笑顔が素敵！iすまいる介護マン



1 訪問した3月3日はお雛様祭りのイベント。みんなでクレープ風に焼いた生地にあんこを包む「焼き皮桜餅」スイーツ体験。お雛様の前で記念撮影も楽しんだ。



2 体調が悪い利用者さんのケアをしながらおしゃべり。3年経って、顔なじみになったおかげで、孫のように親しんでもらえる。

働きやすくて
住みやすい。
仕事を楽しくしてます。

利用者全員を楽しませるために、
全員をよく知りたいんです。

すまいるマン 角谷啓介さん

○所属 特別養護老人ホーム サンホーム
○経歴 1991年1月生まれ 南魚沼郡湯沢町出身。塩沢商工機械システム科～長岡医療福祉カレッジ卒業後、現職。介護福祉士。デイサービス部門でレクリエーション・インストラクターを務める。
○趣味 車、バイク、料理(弁当も作る)



3 珍しい「岩盤足湯」は、施設自慢の便利グッズ。温めたセラミックに足湯の要領で足を入れる。移動もできるので、どこでも使えるのが特長。これで体調がよくなった利用者さんも。



特別養護老人ホーム サンホーム

○運営 太陽福祉会
○特別養護老人ホーム 定員90人
ショートステイ 定員20人
デイサービスセンター 定員30人
○新潟県長岡市楡原784番地13
(旧栃尾市) TEL0258-52-0151

利用者さんと町への理解が大切

■就職の理由 機械が好きで高校は機械システム科。ただ、おじいちゃん、おばあちゃん子で、両親や先生からも人柄が優しいから」と進められ、周りの後押しで介護の世界へ進みました。こちらの施設にお世話になったのは、雪深さが地元にて愛着を感じたからです。

■仕事のポイント 今働いているデイサービス部門は、特養と違って、来所される方が毎日変わります。また来たいと思ってくれることが大事。後、元氣と明るさかな。レクは、皆さんの状態に応じて難易度を個々に調整して、バランスよく楽しめるように配慮しています。そのためにも地域と個人をよく知ることが一番大切だと思います。

■つらかったこと 最初、この言葉が聞き取れなくて。会話がうまくつながらなかった。三年経って、だんだんと会話も普通にできるようになりました。栃尾は昔、機械織りが盛んだったとか、昔話をお聞きして、この町のこともわかってきた。利用者の多くは地元で店をやっていた人なので、人あたりがよくて働きやすいです。

■今後の自分 十年経っても現場にいたいですね。まだ経験不足ですが、利用者さんと話して笑顔を引き出せる力をつけていきたい。これからは介護の情報が行き渡って、要求が厳しくなってくると思います。今、基礎をしっかり作って応用の効くスタッフになりたいです。



セミナー写真アルバム

全体研修

今年度の全体研修は、「看取り」をテーマに、研究大会での石飛先生の講演から始まりました。福祉事業所の入所者は年々重度化、重症化を増し、施設で人生の最期を迎える方も増えてまいりますが、終末期のあり方について考えると、人生の最期を穏やかに迎えるために私たちが出来ることは何かという課題に直面します。茨城県立大学の大田仁史先生には「介護期・終末期のリハビリ」を、特養ハピネスあだちの小川利久先生、小林悦子先生には「いのちをつなぐ看取り援助」についてご講演いただきました。そして最後は、ルーテル学院大学の福山和女先生から「看取りの援助の中で考える」として、看取りに関する課題等についてGWを含めてご指導いただきました。「看取り」研修は、次年度も継続する予定です。



大田先生の講演が始まりました。



小川先生、小林先生（看護師）による事例紹介は臨場感があり、とても参考になりました。



GWで気さくにグループの中に入り指導される福山先生（中央）。



穏やかな口調ながら説得力のある講演でした。要介護度の高い高齢者の廃用防止リハビリは、本当に大切です。

21世紀委員会パワーアップ研修会



市井会長から、21世紀委員の活躍を期待する挨拶がありました。

平成25年度から、本会に29名の21世紀委員が誕生し、各ブロックの運営委員として部会活動にも参加しています。昨年の研究大会では、21世紀委員活動の第1歩として、第3ブロックの21世紀委員による分科会「福祉のプロとして働くために」が設置され、好評を博しました。そして、それに続くこの研修では、介護業界の課題や展望について大いに語り合い理解を深めました。今後の活躍が期待されます。



GWで業界の将来展望について熱く語りました。

新潟県介護支援専門員実務従事者基礎研修

新潟県から受託している「平成25年度介護支援専門員実務従事者基礎研修」は、今年も県内4会場で、10月1日から11月28日までの間の5日間の日程で実施され、275名の介護支援専門員が受講しました。原則実務就業後1年未満の方を対象にしており、日頃業務を遂行する上での様々な課題が浮き彫りにされました。



基礎研修を受けて

この度の研修を通して、「変化」という視点からケアマネジメントを考える良い機会となった。変化していく社会の中で求められる支援者像、支援を受ける側、支援する側の変化が印象的だった。

地域包括ケア体制の構築が推進される中、連携を前提にご利用者様一人ひとりの在宅生活をより良いものとしていくことができるような資質の向上、地域全体の高齢者の利益への貢献が求められている。支援を受ける側の変化では、心身状況、環境等により変わっていくニーズ。支援する側の変化ではアセスメントの重要性、ご利用者様の主体性、連携、考え方が固まっているかもしれないという意識等の重要性を改めて認識、これから現場で行っていく実践。

こうして考えてみると、変化することだらけだ。すぐには活かしていけないだろう。ただ、少しずつではあるが、本研修で得た気づきを基盤として、成長していきたい。



新潟市地域包括支援センター木戸・大形
足立 康彦

基礎研修を受けて

平成25年7月から施設の介護支援専門員としてケアマネジメント業務に従事させて頂いております。施設現場ではケアプランを軸としたチームケアの実践が思うように進まず、これで良いのか、自分のしている事は間違っているのではないかと自信がなく不安に思っていました。実務従事者基礎研修に参加し、ケアプラン立案の為のアセスメントからモニタリングまで一連の流れを再確認し、知らず知らずのうちに思い込みや省いていた重要な手順、方法に気付く事ができました。経験を重ねると共に基本となるケアマネジメント、援助技術、倫理についての知識や技術が薄れる事の無いよう日々の業務を振り返り、利用者の生活の質の向上、自立支援ができる介護支援専門員になりたいと思います。施設の介護支援専門員は孤立しがちで、重責が非常に大きい現状がありますが専門性を高め他職種と協働し、利用者により良いケアが提供できるよう努めていきたいと思っています。



特別養護老人ホームかつぼ園 施設サービス課
多田 美代

ブ ロ ッ ク 部 会 研 修

1月30日

第1ブロック部会

第2回目の研修は、「介護施設における業務標準化のすすめ」と題して、21世紀委員会のパワーアップ研修会でも講演いただきました江戸川光照苑の水野苑長（現 偕楽園ホーム施設長）においで頂きました。全ブロック研修としたことから、第1ブロック以外からも多数参加いただき、運営委員を含めて102人の出席となりました。



佐藤ブロック部会長の講師紹介です。



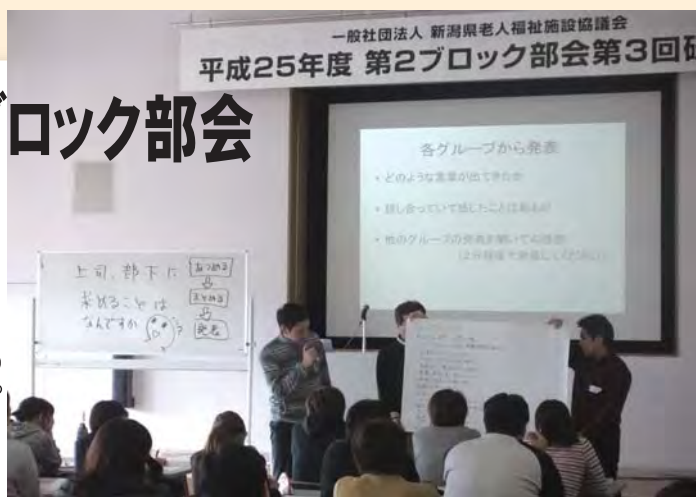
専門職は観察力がすべてです。いつも利用者様と接触しているのは我々介護職です。当事者意識がないと評論家になってしまいます。

12月2日、1月22日 第2ブロック部会

第2ブロックは、12月と1月に連続して研修会を実施いたしましたが、12月は経営層を対象に「報酬改定に翻弄されない施設経営」、次いで1月は一般職員を対象に「施設が求める主任・リーダーの在り方」と、視点を変えた研修を行っております。



千野先生は「新人職員育成100日プログラム」作成に携わっております。



各グループの発表風景です。

久保田先生を囲んでの懇親会の様子です。

1月30日 第3ブロック部会

第3ブロックは、研究大会を担当したためブロック部会研修は1回でしたが、スプーンからロボットまで 福祉用具の開発とは」と題して、介護ロボットの実験を織り交ぜたユニークな研修会を行いました。実用化には今少し時間がかかりそうですが、新しいビジネスの胎動を感じさせる研修でした。



西川施設長の講師紹介で研修会がスタートしました。



話題の「ロボットスーツ」の前で、研修会の手ごたえを感じてニンマリする山保部会長です。スーツを着用した時の各部署に掛かる圧力等をパソコンに表示させているところです。



11月29日 第4ブロック部会

11月29日（金）に第4ブロックの第2回研修会が、十日町道の駅「クロスステーション」で開催されました。今回は「自分を守るテクニック～体編、元気になるう～」と題して、理学療法士 加藤慶氏からご講演いただきました。当日の参加者は55名で、講演はウォーキングの大切さ、腰痛解消法体操など、実体験に裏打ちされた内容で非常に説得力があり、自分自身をしっかりケアすることの大切さを痛感しました。第4ブロック部会は、事業所職員向け研修に軸足を置いています。



清水部会長、貝瀬副部会長の黄金コンビで研修が始まります。



さあ、みんなで腰痛を解消しましょう。



講師の理学療法士加藤慶先生です。

10月9日、11月26日、3月4日 第5ブロック部会

紙面の関係で掲載が遅くなりましたが、第5ブロック部会では、10月9日（水）に、新潟県労働衛生医学協会の大西金吾常務理事から「心の健康を考える」と題して講演いただきました。大西先生の講演は定評があり、曰く「情熱を持って生きれば生きがい生まれ、謙虚さを忘れない人は成長する」、けだし名言。当日は昨年からの構想を温めていた「スチームコンベクションの有効活用について」全ブロックの栄養調理関係職員約100名が出席しました。

11月26日（火）の2回目は強風で列車の運休が相次いだにもかかわらず、60人の出席予定者全員が開始時刻に間に合いました。講師（依田窪福祉会、村岡常務理事）も開ロ一番「ビジネスマンに遅延の理由はありません、これが成功の秘訣・・・」

3月4日（火）は、元南極越冬隊長 横山宏太郎氏（2月27日まで新潟日報に連載）の登場です。

厳しい環境の中での意思決定は、冷静沈着な判断力と経験がものを言います。多くの高齢者の命を預かる我々も同じです。次いで平成27年度からの介護保険制度改正について、吉澤副会長からポイントの説明がなされました。制度改正については、来年度の管理者研修会でも詳細を取扱う予定です。



松矢部会長のご挨拶で、研修会がスタートしました。右は講演される大西金吾氏。



第35次南極越冬隊長 横山宏太郎氏。

対外活動

平成26年度社会福祉関係要望事項

11月18日(月)に県庁において、福祉団体11団体による26年度福祉政策・予算要望が行われました。当日は泉田知事に福祉団体の代表から要望書が手渡され、各団体の代表者と知事の間で質疑応答がなされました。本会からは、認知症研修に対する対応の強化を要望し、県からは「医学的見地に基づく研修の受講機会の確保に努めたい」との回答をいただきました。



新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会設立

新潟県社会福祉協議会の主催で、標記協議会が発足しました。

これは、大規模災害や広域災害が発生した場合、県内の福祉団体が連携して要援護者を支援することを目的として設立された協議会で、本会市井会長が副会長に選出されました。本会では、過去の災害時にも福祉避難所の運営、要援護者の緊急受入れや職員派遣を行っており、今後も他の福祉団体と連携して、支援活動の中心となることが期待されています。



設立総会の様子です。

満5歳の白鳥荘

「おはようございます。」「こんにちは!」「ありがとうございます。」「おやすみなさい。」
の挨拶が笑顔で交しあえる。

そんな一日がご家庭のように穏やかに過ぎてゆく...

白鳥荘ではご利用者様にとって職員は新しい家族になれるように。と考えております。
そしてご利用者様には、今までのご家庭での生活の延長で快適に。と考えております。

特別養護老人ホーム白鳥荘園長

田中美和子さん

●施設長リレーコラム●



当施設白鳥荘は新潟市内から東に、車で約40分の阿賀野市(旧水原町)に位置し、白鳥飛来の瓢湖、また五頭連邦が望まれる、四季折々の自然環境豊かな地にあります。

この原稿依頼に少し戸惑いを覚えながらもこの機会をプラスに捉え、わが施設のご紹介をさせて頂きたいと思っております。

旧北蒲水原町では、昭和52年8月に高齢化福祉施設の先駆けとして阿賀北二市(新発田・豊栄市)一郡の高齢者を広く引受け水原郷病院の敷地内に、県内でも早い段階で白鳥荘が創設されました。そして32年の歳月の中、介護保険制度の導入や諸制度の変革と共に歴史を刻んでまいりました。建物全体の老朽化により、平成21年4月に完全個室、ユニット形式の新型特養として移転改築し現在の地に生まれ変わりました。



全景



喫茶コーナー



水中リハビリプール

事業所所在地	新潟県阿賀野市百津88番地
運営事業者	社会福祉法人 阿賀北総合福祉協会
事業所の種類	特別養護老人ホーム
開設日	平成21年4月1日
連絡先等	

TEL 0250-62-0333

FAX 0250-62-0332



今年4月に満5歳(年)を迎えようとしております。5年前の全面改築に当たり、阿賀野市の大きな課題である「高齢者問題」に積極的に対処するため、平成17~19年度の3カ年に渡り、福祉の先進国であるフィンランドのFWBC(フィンランド健康福祉センター社)の講師を招き、また現地研修などで福祉概念を学び「最後まで元気に」「老後を楽しく自立した生活を」をモットーに阿賀野市と連携しての取り組みが始まりました。自立支援は当然、特養の使命ではありますが、フィンランド現地研修で学んだ、ご利用者お一人お一人の残存機能を見極め「見守る介護」を、また当施設の理念の一つである、「できない部分をお手伝いします」を念頭に取り組んでいるところです。五歳を迎えた新白鳥荘もこの年を一つの節目として更に、地域の公器となり、またご利用者が笑顔で「家庭の延長」と感じていただける施設を目指していきたくと考えております。



夏祭りの行事(仮装大会)



編集後記



ソチオリンピックが終了して1か月が経過しようとしています。私の年代では東京オリンピック前後の名選手を思い出します。水泳のドン・ショルダー、マーク・スピッツ、陸上のボブ・ヘイス、カール・ルイス、マラソンのピキア・アベ

べ、柔道のアントン・ヘーシンク、冬季では、三冠王トニー・ザイラー、猪谷千春(古い)、ジャン・クロード・キリー、期待されながら結果を残せなかったスピードスケートのダン・ジャンセン(最後には勝った)、長野の清水宏保、ジ

ャンプの原田、船木、札幌の日の丸飛行隊、笠谷、紺野、青地。この陰にどれだけ泣いた選手がいたことか。適度な緊張感を保ちながら重圧を跳ね返し、力を発揮することの難しさを感じましたね。



発行所 一般社団法人 新潟県老人福祉施設協議会
新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2 新潟ユニゾンプラザ2F
電話 025-281-5534 発行人 市井 栄吉
にいがたろうしきょう NEWS 平成26年3月25日発行